

絶頂の中国の8K

中国の4K 8K/5Gの動向とCCBN2021

2021年7月1日中国共産党建党100年、2022年2月開催の北京冬季五輪で国の威信をかけ最終段階にはいった中国の4K/8K+5Gの最新動向などについて、最近中国で開催されたICT関連イベントの内容を分析し、上下2回に分けて報告します。

阪本徳男

Sakamoto Norio
国際放送技術評論家

I. 4K 8K放送国家重点実験室 第1回学術委員会第1次会議開催

4K8Kは総合的実用化の段階に 北京冬季五輪で「成果」を誇示

中国の技術動向を見る場合、その都度開催される委員会、研究会などの開催内容をフォローすることが大切です。4K8K放送の重要会議の詳細は公表されていませんが、参加メンバーと実験室の名称が解りましたので、それから研究内容が類推できます。第1回学術委員会の内容を吟味してみましょう。

2021年5月6日、第1次会議が開催され、12名の著名な専門家委員、科学技術部基礎研究所の関係指導者、学術委員会高文院士主任の姜文波・実験室主任が出席しました。この会議には12名の著名専門家委員が出席されたようです。中国工程院高文院士である毛軍發院士を先頭に以下の方々が参加しました。技術者の称号である「院士」ですが、中国の学術団体の「アカデミー会員」といったところです。中国科学院、行程院には、千名とまではいきませんが、最高名な学者・技術者が院士と呼ばれ、尊敬されています。他の院士や技術者の方々は以下の方々です。

戴瓊海院士、沈昌祥院士、丁文華院士、姜文波氏、錢岳林氏、宋宜純氏、張文軍氏、王延峰氏、謝錦輝氏、馮景峰氏の方々です。自慢ではありませんが、そのうちの8名を私は存じ上げて

います。よく、中国のICT技術開発情報の多くは「盗まれたもの」という誹謗がありますが、4K8Kや5Gに関してはそういうことはないだろうと私は確信しています。

それでは何が話し合われ、何が決められたのでしょうか。一言でいえば、4K8Kは実験室から飛び出して実用化の段階に突入した、といえるでしょう。その実用化の場が2022北京冬季五輪だといえるでしょう。一部、東京OlyParaでも実用化レベルに達したソリューションに触れることができるかもしれません。

技術開発の実験室（プロジェクト）名は、以下の6つのテーマです。

- ①超高清TV (SHV) 制作
- ②超高清放送
- ③5Gメディア応用
- ④新メディア融合制作
- ⑤放送新聞融合制作
- ⑥放送制播、3Dデジタル・オーディオ技術

以上、6技術研究実験室と協力関係にあるのが、上海交通大学です。大学は媒体智能、廣播電視規則院との映像・音声評価測定技術研究実験室でのプロジェクトで密接な関係にあります。

中国の国務院に属する行政機関「国家發展和改革委員会」（国家發改委）が入るビル。「發改委」は英語表記ではNational Development and Reform Commission (NDRC)で、国の發展推進軸を担っている



すでに、これらの研究室（プロジェクト）は、以下の技術の実用化に漕ぎつけています。

- ①北京冬季五輪8Kデジタル中継システム技術、4Kテレビ制作・放送システム
- ②放送網と移動5G網融合による全メディアコンテンツ共同分配コア技術
- ③国家發展改革委員会（国家發改委）と工業情報化部は、5Gインフラ建設プロジェクト「5G+4K/8K制作・放送モデル・プロジェクト」を立ち上げ、發展させてきた。また「4K



4K 8K映像・音声放送国家重点実験室第一回学術委員会に参加された技術者の方々。日本でいえば総務省系、あるいは経済産業省系の技術団体の著名幹部たちにあたります。やはり男性が多いですね。写真は「央視新聞」から転載